

2020年3月26日

## 国内生保初となるポジティブ・インパクト・ファイナンスへの融資 ～気候変動の緩和をはじめとしたSDGs達成に向けた企業の取組みを後押し～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、株式会社 SUBARU(代表取締役社長:中村 知美、以下「SUBARU」)を借入人とするポジティブ・インパクト・ファイナンスに、5億円の融資を行うことを決定しましたのでお知らせします。なお、ポジティブ・インパクト・ファイナンスへの融資は、国内生命保険会社として初めての取組みとなります。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、国連環境計画金融イニシアティブ(UNEP FI)が提唱するポジティブ・インパクト金融原則に即したファイナンス手法であり、投融資先企業の SDGs 達成に向けた KPI の評価・モニタリングを行い、企業による環境・社会・経済へのポジティブ・インパクトの増大、ネガティブ・インパクトの低減を目指す金融商品です。

日本有数の自動車メーカーである SUBARU は、サプライチェーン全体でグローバルなサステナビリティ活動を実践する方針を掲げ、「サステナブルな社会の実現」を目指しています。本件は、脱炭素社会の実現に向けた CO2 排出量削減や、電気自動車やハイブリッド車への切り替えといった SUBARU の取組・KPI 等を分析し、環境・社会に与えるポジティブな影響を評価した上で融資されています。

当社は本件融資が、SUBARU の CO2 排出量削減等のサステナビリティ活動の更なる推進の動機付けとなり、気候変動の緩和をはじめとした SDGs 達成に向けた取組の後押しとなることを期待しています。

今後も引き続き、運用手法の高度化・多様化によって資産運用収益の向上を図るとともに、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG 投資に積極的に取り組んでいきます。



### 【案件概要】

借入人	株式会社 SUBARU
組成金額	100 億円
期間	4年
アレンジャー	三井住友信託銀行

【参考: 本件融資において評価された SUBARU の SDGs 達成に向けた取組・KPI】

取組内容	KPI
「環境アクションプラン」による CO2 排出量の削減に向けた取組 クルマの燃費性能改善、電動技術の搭載および電気自動車やハイブリッド車への切り替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030 年度自社活動に起因する CO2 排出量を 30% 削減(2016 年度比)</li> <li>・ 2030 年までに、全世界販売台数の 40%以上を、電気自動車(EV)およびハイブリッド車にする</li> </ul>
クルマの安全性能に関する先進技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030 年に死亡交通事故ゼロ(SUBARU 乗車中の死亡事故および SUBARU 車との衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロにする)</li> </ul>
女性、シニア、障がい者、外国籍従業員の多様性を尊重し、受容する職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年に向けて女性管理職数 12 倍以上(2014 年度比)</li> </ul>